

# 平成29年度 学校関係者評価報告書

学校名：あいち福祉医療専門学校

## 1 学校目標

- ・第2世代福医専として新たな10年、20年を踏み出す学校づくりに向けて常に学校経営理念を再認識し、前年度実績を踏まえより一層の教育力と協働意識を高める。
- 1) 情報の共有・協働 2) 出席率98%超、退学率6%以内、進級率・卒業率92%超 3) 国家試験合格(資格取得)率90%以上、年度内就職率100%
- 4) 総定員充足率80%(352名)以上の維持 5) 校友会運営の協働(部会活動の活性化) 6) 通信教育事業研究 7) 出前授業・総合学習受け入れ
- 8) 学園が展開する海外との教育連携とともに実際の取り組み 9) 介護福祉学科外国人留学生受け入れ 10) 入学生190名の到達目標
- 11) 体験入学参加者数600名以上、参加者歩留まり42%以上 12) SNSおよびトピックス活用の情報共有とホームページ広報の活発化
- 13) 経費節減、各支出10%削減の意図的促進 14) 養成施設指定規則に準拠する教育環境整備および管理 15) 各数値目標のシステム化把握
- 16) 各学科教育のロードマップ(AP-CP-DP)づくりと卒業後の体系化

### 学校目標に対する評価・意見

- ・概ね目標は達成していると思われる。
- ・理学療法学科の国家試験合格率は全国平均からすると低いがプロセスはできていると思う。
- ・退学率減少に向けての取り組み、社会貢献のための新規事業への取り組みに期待したい。
- ・体験入学者の歩留まり目標を実現してほしい。
- ・専門職教育の重要な柱である臨床実習施設との協調・協力の充実を明確にしてはどうか。
- ・高等学校への情報提供をもっと充実し理学療法の重要性、高度専門教育の必要性について訴える必要がある。
- ・学校運営のコンプライアンス評価が3、教育活動のキャリア教育評価が3、そこをどう改善するかが大切なのは。また学習成果の評価に3が多いが、卒業教育を含めた研修の機会をもっと多くしてOG・OBの自治的なものができるとうい。
- ・通信教育や実務者研修については、社会人として働いている人の学ぶ場が増えることはとても良い。
- ・卒業生の就職先へのアンケートはとても良い。また、ボランティア活動については社会や地域貢献だけではなく教育的にも有意義である。
- ・海外研修については、学生の経済的な面から困難な現状は理解できる。
- ・目標に対する評価は妥当である。
- ・教員が実習地確保のために活動するのは負担が大きい。
- ・目標が前年度と同じ内容になっているため、評価や改善意見が活かされているのか曖昧である。
- ・数字では優れていると感じるが、質の維持・向上につながっているのか不安を感じる。

## 2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準1 (教育理念・目標)	4	3.9	3.9
基準2 (学校運営)	4	3.9	3.9
基準3 (教育活動)	3.8	3.8	3.6
基準4 (学修成果)	3.6	3.5	3.5

基準5 (学生支援)	4	3.8	4
基準6 (教育環境)	3.6	3.8	3.6
基準7 (学生の受入れ募集)	3.8	3.9	3.6
基準8 (財務)	4	3.9	3.9
基準9 (法令等の遵守)	4	4	4
基準10 (社会貢献・地域貢献)	4	3.9	3.9
基準11 (国際交流)	4	3.8	3.6

### 3 今後の改善意見

- ① 他校とは違う理念に基づき、国試合格率のアップだけに目標を定めず進級・卒業率等を上げることを今後も目指してほしい。
- ② 臨床実習指導者会議の充実。（複数回開催など全施設との情報共有を図るとともに施設間の意見交換を充実させる）
- ③ 体験授業で国家試験問題を取り入れるなど高度教育の必要性を訴えてほしい。
- ④ 卒後教育として卒業生の自治会をもっと積極的に学校側も支援し、数年は卒業生に学校で研修などの機会を作り、実習先の確保にもつなげていける取り組みが必要である。卒業年度ごとに代表等をつくり卒業生の転職等の動向も把握できると良い。
- ⑤ 実習地の確保は別業者に委託し教員の負担を軽減し学生の教育に専念できる環境にすることも必要である。
- ⑥ 福祉分野、特に介護の不人気さがあるため資格取得・就職率の実績だけでなく、携わりたい・学んでみたいと思えるような広報活動をしてもらいたい。
- ⑦ 社会に送り出す前に必要な知識や技術を身に付けてもらいたい。また、人間性やマナー等にも気に留め学生と関わり指導してほしい。

### 4 今後の具体的な改善方策

- ① 予習・復習を習慣化する授業形態の工夫に向け、例えばワークシートの導入など進級・卒業・資格取得につながる方法研究と実行・評価のサイクルをつくる。
- ② 複数回の臨床実習指導者会議は指導者都合もあって非常に困難である。1回の臨床実習指導者会議の内容を実習生の成果報告や指導者のためのテーマ研修を提案するなど充実させるとともに、実習中の実習施設との連絡の密度を高める。
- ③ 体験入学で国家試験問題を取り入れるまでは困難であるが、入学後に勉強する内容に関心高まる刺激として具体的に紹介する。（解剖学、運動学、生理学）入学後、早期の段階で国家試験問題の試験を行うことで対応する。
- ④ 卒業生ネットワークの充実。卒業生が学校に来たくなるような環境作りとしてテーマニーズを捉えた卒後勉強会を企画する。
- ⑤ 実習地確保に業者委託は実習先との連携強化の観点から不可とする。実習施設との密なつながり（講習会開催）、卒業生就職先との関係を強化する信頼度・実績度を上げる）方策で確保する。
- ⑥ 愛知県私立学校教職員組合連合主催「愛知サマーセミナー」をはじめ、愛知県や名古屋市の地域医療介護総合確保基金事業に校舎使用の協力という一般市民対象の講座やイベントへ積極的に参加、介護について幅広い普及、啓発活動を行う。
- ⑦ 常日頃の教育および指導による人間性やマナーの向上、学校行事を通して協調性や課題解決能力が身につくようにクラス担任中心にS Tで実行する。